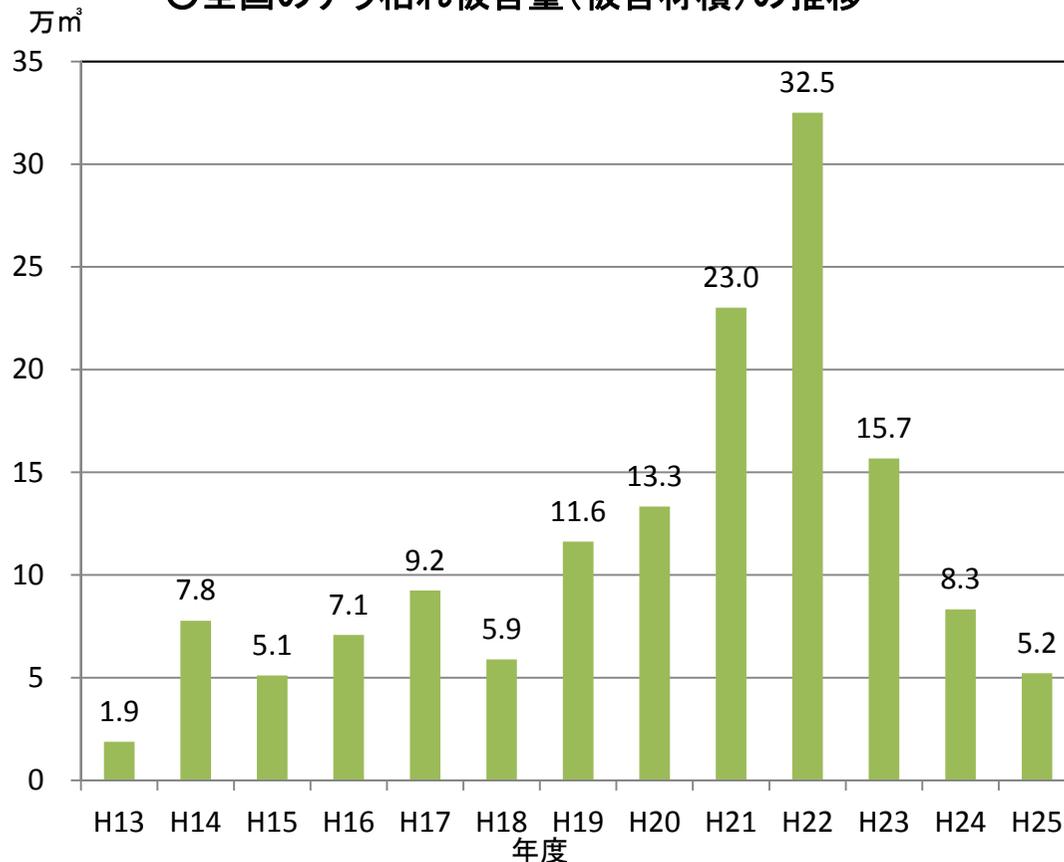


ナラ枯れ被害対策について

(1) ナラ枯れ被害の現状

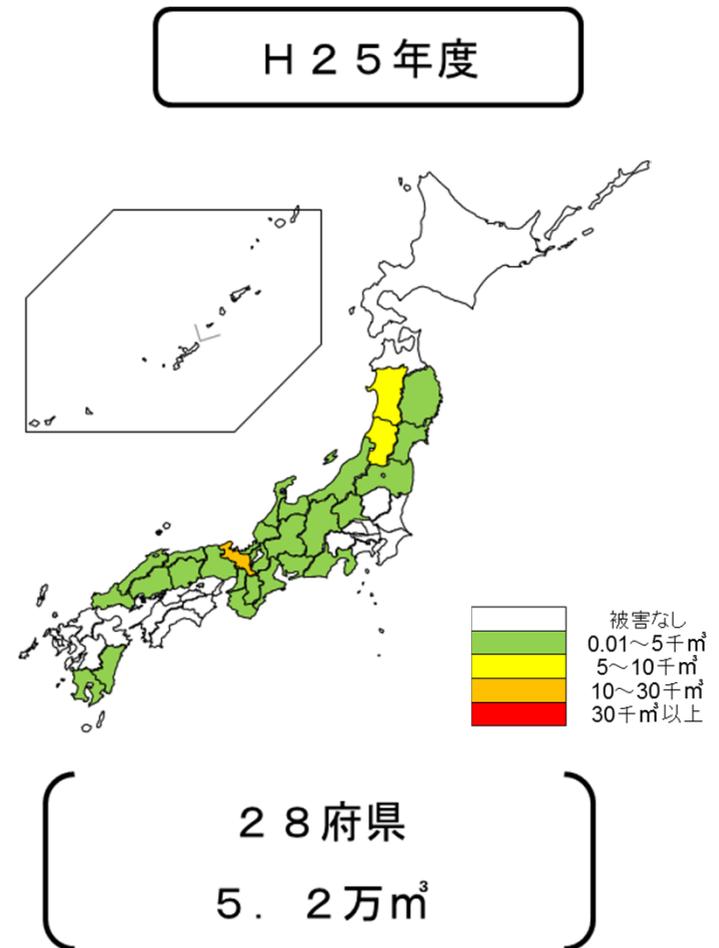
- 平成25年度の全国のナラ枯れ被害量は、前年度と比較して4割程度減少し、約5万 m^3 となっているが、一部地域では被害が増加。
- 平成25年度に被害が発生したのは28府県であり、新たに被害が確認された県はなかった。

○全国のナラ枯れ被害量(被害材積)の推移



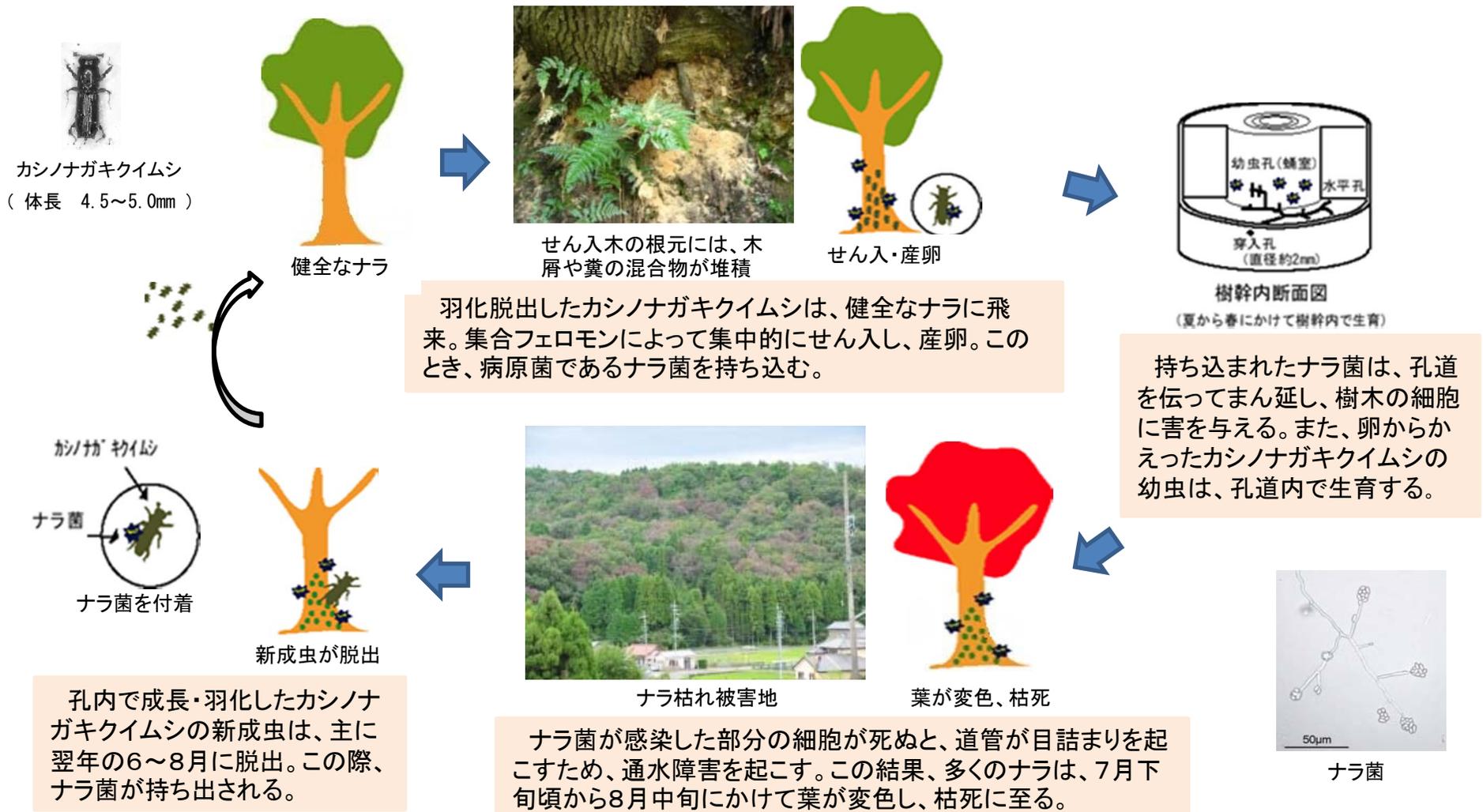
注: 都道府県等からの報告による。民有林及び国有林の被害量の合計。

○都道府県別のナラ枯れ被害状況



(2) 発生メカニズム

- カシノナガキクイムシが樹体内に持ち込むナラ菌のまん延により、道管が目詰まりし、通水障害を起こすため、ナラ枯れが発生。
- 樹体内で成長・羽化した新成虫がナラ菌を付着し、別の健全なナラの個体に移動することにより、被害が拡大。



(3) ナラ枯れ被害対策の概要

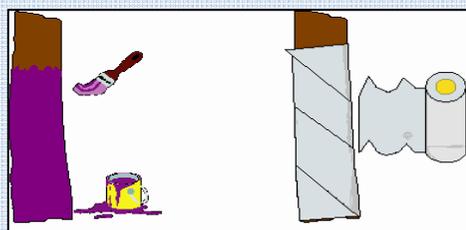
○ ナラ枯れの防除に当たっては、被害拡大の先端地域において、特に守るべき樹木及びその周辺を中心に、樹幹注入等による予防措置や薬剤によるくん蒸等による駆除を実施。

予防

○ 予防手法

- ・健全木へのカシノナガキクイムシの侵入を防ぐため、粘着剤等の塗布またはビニールシートの被覆を実施(秋～春)。

- ・樹木を枯らすナラ菌や、餌となる酵母等を殺菌するため、殺菌剤の樹幹注入を実施(春～夏)。



粘着剤等を塗布

カシナガの付着を防止するためのビニール巻き



殺菌剤の樹幹注入

その他

- ・ナラ枯れ予防手法の実証、森林管理に係る地域協議会の開催等
- ・天然林の質的・構造的な改善を目的とした整理伐等

駆除

○ 駆除手法

- ・被害木内のカシノナガキクイムシを駆除するため、羽化脱出前に薬剤によるくん蒸または焼却、破碎を実施(秋～春)。
- ・カシノナガキクイムシの誘引捕殺を実施(春～夏)。



材に刻み入れ



シートで被覆密閉

〔くん蒸とは〕

被害木を伐倒、玉切り(材の表面に刻みを入れる)、集積し、全体をシートで被覆密閉して、NCS剤でくん蒸処理し、材内のカシノナガキクイムシを殺虫する。